

最強のプレゼンツール登場！！

『OpenSTAGE(オープンステージ)』



セミナー活用 事例のご紹介

CASE Study

様々な規模やスタイルのセミナー・プレゼンテーションでの活用が広がっている、デジタルペンを用いた新たなプレゼンテーションツール「OpenSTAGE」。OpenSTAGEの活用法、活用による効果や実際にご活用されているユーザ様の声をご紹介します。

■プレゼンテーションツール『OpenSTAGE』とは？

手元用紙やスクリーン(ホワイトボードにマグネット貼りしたもの)から、手書きした内容をリアルタイムに大型スクリーン投影することができるプレゼンツールです。



『OpenSTAGE』は様々なシーンで活用されています

オフィス会議の
インタラクティブボードとして・・・

企業研修、講義・授業の
説明用ツールとして

製図会議・デザインレビューの
書込み用ツールとして・・・

セミナー・講演、学会発表の
プレゼンテーションツールとして・・・

講義・ゼミ、グループ討議の
双方向発言用ツールとして・・・

遠隔会議の
コミュニケーションツールとして・・・

■『OpenSTAGE』セミナーでの活用方法

本シートでは『**セミナーでの活用**』についてご紹介します。以下のように、多様なセミナーで『OpenSTAGE』が活用されています。

1. 大・中規模セミナー

<会場>

展示会場、大ホール、大会議室

<セミナーのスタイル>

セミナー会場に据付型のプロジェクターで大型スクリーンに資料を投影し、プレゼンテーションを行う。

2. 中・小規模セミナー

<会場>

会議室、セミナールーム、展示会・イベントでの自社ブース(セミナーコーナー)

<セミナーのスタイル>

セミナー会場に可搬型のプロジェクターを持ち込み、ホワイトボードサイズのスクリーンに資料投影し、プレゼンテーションを行う。

3. 双方向・討議型セミナー

<会場>

会議室、セミナールーム

<セミナーのスタイル>

複数のパネラーが参加する討論型のセミナーでプレゼンテーションを行う他、発言用ツールとして利用する。質疑応答等、聴衆にデジタルペンを渡し、手元の紙に書いて発言させ、討議の活性化を図る。



阿久津 英憲氏 | 国立成育医療研究センター 生殖・細胞医療研究部 室長

「大型プロジェクタースクリーンを使った学会発表で分かりやすく説明」

学会発表でOpenSTAGEを使いました。50ページ程の資料を使いましたが、デジタルペンで書きたいページは約半分ありました。(図1)



図1: 学会資料(左)とデジタルペンによる書き込み例(右)

学界では大きなプロジェクタースクリーンに資料を投影して発表することが多いので、レーザーポインタは非常に小さく見づらいです。(表紙・図1)OpenSTAGEでは、デジタルペンで手元の紙から投影資料に自由に書き込むことができ、その内容は画面上に残るため、分かりやすいと思います。また、質疑応答時にページを戻って説明する際も1アクションで画面を切り替えられるので、スムーズに対応できました。(図2)



図2: 聴取から質問を受けて説明する阿久津先生



学会発表の様子



阿久津 英憲氏

学会活用での唯一の誤算は、マイクを持たなければならないことでした。壇上を歩きながら説明し、画面操作をしたかったので、ページ遷移のコントロールパネル(紙)を切り取り、手とマイクに貼り付けました。(図3)

しかし実際には、デジタルペンで書き込みを優先した為、資料を置いている演台から離れることができませんでした。ワイヤレスマイクのある会場では、両手が自由になる為、壇上を歩きながらのプレゼンを行うスタイルを是非試してみたいです。



図3: ページ遷移のコントロールパネル

紙とデジタルペンを持ってプレゼンする場合のイメージ



中桐 啓貴氏 | GAIA株式会社 代表取締役社長

「資産運用を分かりやすく説明」

“投資信託セミナー”でOpenSTAGEを使いました。これまでは差し棒を使って説明していましたが、デジタルペンで画面上にマーキングできるので、お客様にもポイントが把握しやすくなったと考えます。

今回のセミナーでは、OpenSTAGEとは別にホワイトボード(図4)を使つての説明も行いましたが、ボードのサイズが小さく若干暗いので、後ろの方のお客様は少々見づらくもかもしれません。

今回はホワイトボードを使わずに、“板書”用の白紙ページを資料に追加し、手元で“板書”した内容がプロジェクタースクリーンに投影されるようにしたいと思います。これもOpenSTAGEのいいところですね。

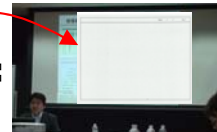


中桐 啓貴氏

セミナーの様子
表題:『値下がりしている投資信託を
かしく見直す』



図4: ホワイトボード(左)とプロジェクタースクリーン(右)の位置とサイズのイメージ



“板書”用白紙ページを追加

紙からプロジェクタースクリーンに手書き表示が可能(ホワイトボード利用)

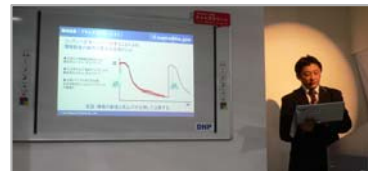
大日本印刷(IPS事業部・CBS事業部)

「展示会で多くの来場者が足を止めるプレゼンテーション」

東京ビッグサイトで開催された展示会の自社ブースセミナーでOpenSTAGEを使いました。

画面操作の紙に、重要なポイントをメモ書きできるので、セミナーに慣れていない要員がプレゼンを行う際には有効です。

また、プロジェクタースクリーンに投影されたデジタルのセミナー資料に、アナログの手書き情報がつらつらと表示される為、興味津々に足を止めて見入っておられた通りすがりのお客様も大勢いらっしゃいました。



最強のプレゼンツール『OpenSTAGE』 ～セミナー利用における5つの特長～

① “書き込んだこと”が画面上に残るからわかりやすい！

通常 レーザーポインタ(図1)

- 指している場所が分かりにくい
- 指し示した跡が残らない
(聴衆の記憶に残りにくい)

レーザーポインタの位置
(ほとんど見えない)

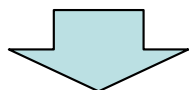


図1:大画面スクリーンに投影された資料にレーザーポインタで指し示す講師

OpenSTAGEを使った場合(図2)

- 手元の資料に書き込んだ内容は、リアルタイムで投影資料に反映される
- 書いた内容(アンダーライン・文字など)は画面上に残るため分かり易い
 - ページを戻って説明する際にも画面に記録された手書きコメントを再確認できる

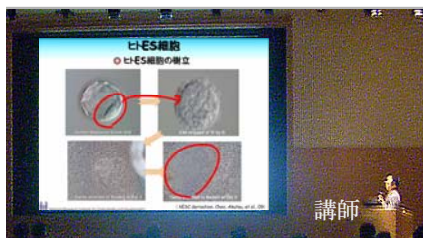


図2:デジタルペンで資料に書き込んだ内容が画面上に残る

③ 振り返りや参考情報の参照(ページ遷移)も “1アクション”で実現！

通常 マウスでのページ遷移操作

1. PowerPointのスライドショー終了
2. マウスで該当ページを探して選択(図5)。
3. スライドショーを再度立ち上げる

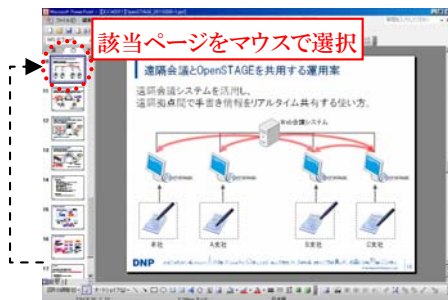
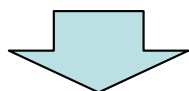


図5:マウス操作によるページ遷移操作

OpenSTAGEを使った場合

- 該当ページの紙(図6)にデジタルペンでふれるだけ。“1アクション”で画面切替！



図6

該当ページの紙

② 伝えたいことを 更に強調・アピール

通常 PowerPointのアニメーション

機能利用

アニメーション実行時は強調されるが、アニメーション終了後は他のテキストフォントと一緒に埋没してしまう為(図3)、聴衆の印象に残りにくい。

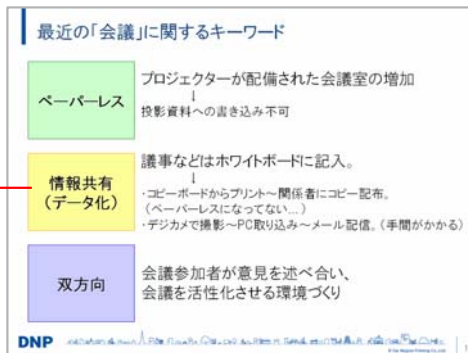
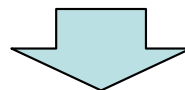


図3:アニメーション終了後の画面状態



OpenSTAGEを使った場合

資料データの中にアナログな「手書き」情報が表示され、より目立ち強調される為、聴衆の印象に残りやすい。(図4)



図4:デジタルペンで資料に手書きしたときの画面

④ プレゼンテーションの際の安心感

画面操作を行う手元資料に重要なポイントなどのメモを、書きとめておくことができるため(図7)、安心してプレゼンに望むことができる。

紙に話すポイントなどをあらかじめメモ書き

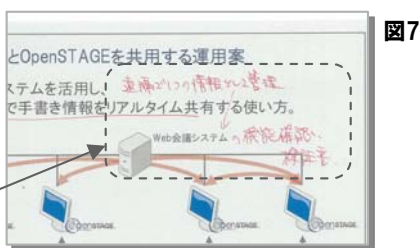


図7

⑤ 聴衆を飽きさせない演出

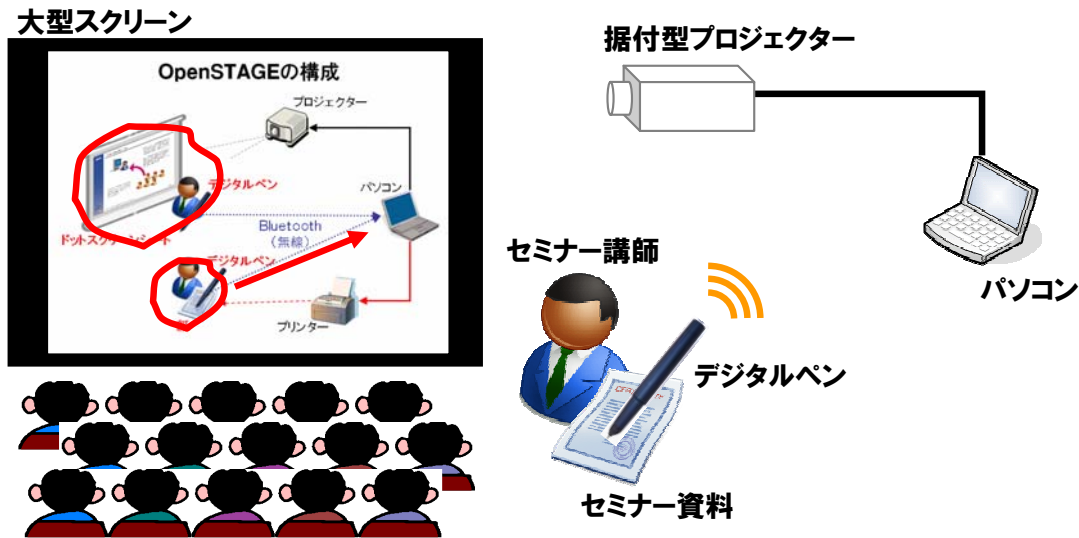
紙からパソコン操作ができるため、講師はパソコンの前にはいる必要がない。デジタルペンと紙を持って歩きながら資料に書き込みを行うなど、聴衆を注目させ、飽きさせない演出が可能。

【ご参考】記入内容を大スクリーンに投影する方法

『OpenSTAGE』を活用し、大会議室やホールの大型スクリーンに記入内容を投影する方法をご紹介します。

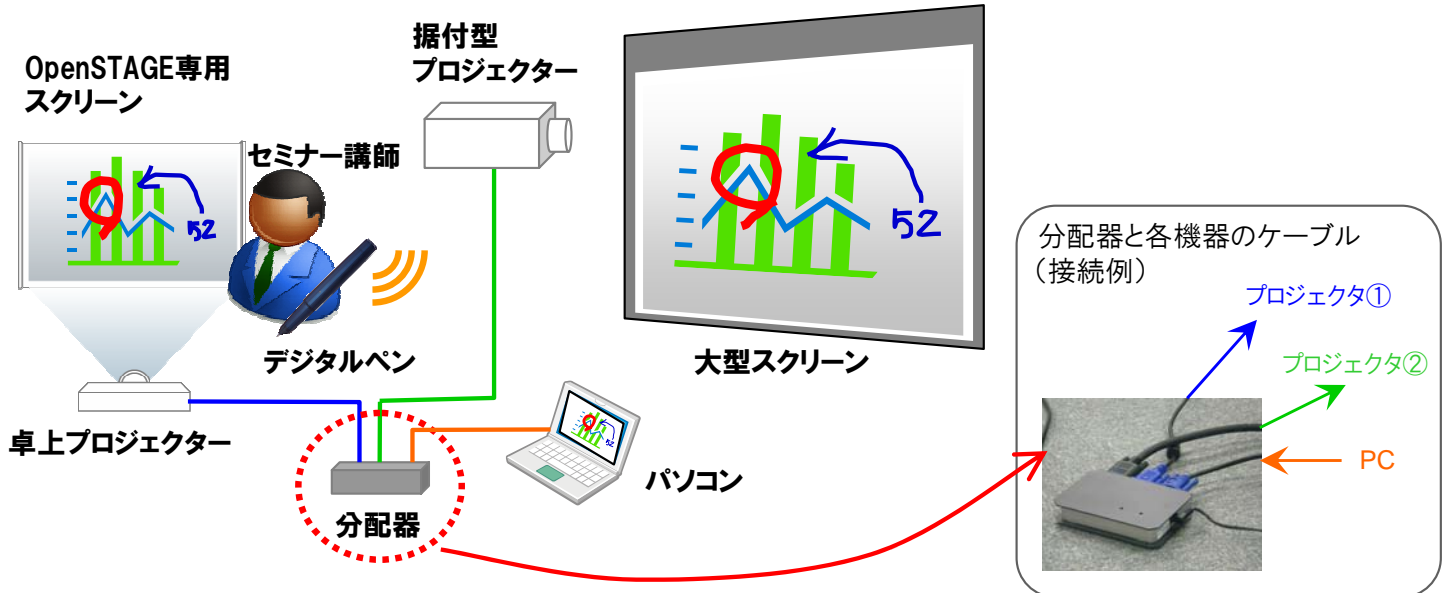
1. 『紙』を利用する方法

セミナー講師は、セミナー資料にデジタルペンで書き込むだけ。書いた内容はプロジェクターで投影された大型スクリーンに映し出されます。



2. 『OpenSTAGE専用スクリーン』を利用する方法

セミナー講師は、セミナー資料を投影したOpenSTAGE専用スクリーンに書き込みます。書き込んだ内容は、分配器などを活用し、大型スクリーンに映し出されます。



※分配器を使わずに、プロジェクタの直列接続で実現できる場合もあります。

●OpenSTAGE は、大日本印刷株式会社の商標です。
●その他すべての社名、ブランド名、製品名は各社の商標または登録商標です。